

このコーナーでは、社内・社外を問わず、さまざまな分野で活躍している人たちに登場していただき、自分らしくいきいきと前向きに生きる力の源とは何かを紹介していきます。



## スズケン城南支店 明石洋子さん

### ■プロフィール

川崎市在住。昭和61年に入社し、城南支店の管理薬剤師として働きながら、障害者が地域で生きていくための支援活動に力を注いでいる。「NPO法人サポートセンターあおぞらの街」理事長、「社会福祉法人あおぞら共生会」理事。先般、東京営業部開設44周年記念講演会にて講演を行い、その様子は薬事日報(平成14年11月29日付)にも掲載された。著書に「ありのままの子育て」「自立への子育て」(ぶどう社)がある。

社内でも明石洋子さんを知る人は多いだろう。長男・徹之さんが2歳の時に知的障害および自閉症と診断されて以来、障害者が地域で生きていくための支援活動に力を注ぎ、福祉分野に新風を吹き込んだ人である。その姿はNHKにも取り上げられ、ドキュメンタリー番組として放送された。日本国内だけでなく、アメリカや韓国でも講演を行い、3年前には「日本小児精神神経学会」で特別講演も行った。

そんな明石さんに、元気の源は何かをたずねた。「やはり徹之の笑顔ですね。そして地域作業所やグループホームにいる障害者の方とその家族の笑顔です。また全国各地での講演を通して、共感しあえる人や温かく支援してくれる人が増えていく。それが私の価値観や視野を広げ、新たなエネルギーになるんです」と明るく笑顔で答えてくれた。

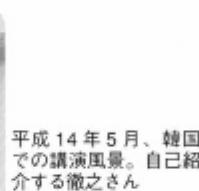
いたずらも隣人との関係づくりにしようと発想を転換させた。

「徹之はいまだ3歳以下の言語能力しか持っていない。しかしありのままを受け入れ、本人の思いを育ててきたからこそ、本来あの子が持っているひょうきんで、素直で、チャレンジ精神旺盛な人間に育ったんだと思います」と話す。現在、徹之さんは30歳。知的障害者では前例のない、川崎市公務員として元気に働いている。

### 不斷の努力と持ち前のバイタリティーで常に新しい道を切り開く

「障害を持ちながら当たり前に生活していくには、あまりにも社会の中に壁が多すぎることに気づき、その壁を一つひとつクリアしなければならないと思ったんです」。市民活動のスタートは、障害児を持つ親が手作りで運営する地域訓練会だった。この活動で、障害児が地域の中で生きることの大切さを身を持って感じたという。生きていくために必要な社会のルール、自立のスキル、人との関わり方を教えるには、地域との交流が欠かせないのだ。「徹之のIQは50以下。しかし施設に入所させて訓練しても100にすることは到底できない。ならば、残りの50は地域の人の支援があればいいのだと気づき、人の心の差別・偏見・同情を理解・共感に変えるため、人を耕し、地域を耕す活動をしてきました」と話す。

また徹之さんの成長に合わせ、保育園の入園運動、小学校、高校の普通学級への入学運動も行った。そして障害者が地域と交流しながら



平成14年5月、韓国での講演風景。自己紹介する徹之さん



韓国のお母さんの質問にやさしく丁寧に答える明石さん

### 常に前向きな発想の転換

いまだ「暗い」「引きこもり」「親の育て方が悪い」と誤解されやすい『自閉症』。実際は、先天的な脳の機能障害で、言葉の理解が不得手という特性がある。

小さい頃の徹之さんは超多動で、人に無関心。記号や文字、数字に強いこだわりを持っていた。またトイレへの執着が強く、近所の家やお店に無断で入り、トイレの水を流す「トイレ探検」を頻繁に繰り返していたという。毎日、頭を下げっぱなしの明石さんは悩んだあげく、無意味なこだわりを意味ある行動に変えていく。超多動も

ら働く場として、「地域作業所」を2ヵ所設立。また、地域で暮らす場として「グループホーム」を3ヵ所、さらに24時間365日生活支援をする「サポートセンター」も作った。

必要なものがなければ自ら作り上げ、周りの環境や人の心を動かす力を持つ明石さん。不斷の努力と持ち前のバイタリティーで常に新しい道を切り開いてきた。その活動は経験のみならず、幅広い情報力と豊富な知識に裏付けられている。「日本より欧米の方が『ノーマライゼーション(特別扱いをやめて、ごく当たり前に)』『インテグレーション(隔離を排し、みんな一緒に)』という概念が浸透していて、障害者に対する制度もはるかに進んでいるんです」とスウェーデンやアメリカなどの福祉事情の研究に余念がない。

### 壁は高ければ高いほど、それを乗り越えたときの感動は大きい

障害者を持つ親として、同じ悩みを持つ人たちに希望をもたらし、勇気を与えてきた明石さん。そして徹之さんの幸せを一心に願い、活動を続けてきた。徹之さんの次の夢は結婚である。その夢を実現するため、「一般の人が当たり前のように行っている暮らしの形態を、障害者も不自由なく持てるシステムを作りたい」と語る。そして「壁は高ければ高いほど、それを乗り越えたときの感動は大きいものですよ」と、さらなる壁にチャレンジする決意を語ってくれた。

(スズケン広報部 佐藤 恵)

### || 新コーナー 2 ひと (この欄に載りました)

[特集]

## 2010年の あるべき姿に向けて

~Part1 平成15年度 経営目標~

11 平成15年度スズケングループ入社式

14 新入社員チャレンジ宣言!

17 NEWS FILE

21 スズケン創立70周年記念企画  
コーポレート・メッセージ各賞決定!

23 進め!職場探検隊

25 コンサルティングセールスへの道

27 追跡!スズケングループ仕事人

29 輝いている人たち

31 おしゃべり倶楽部

33 きょうも元気!

34 定年退職者紹介／新任特派員紹介／れんらく帳

### 今月の表紙



### 「さくら さくら」

スズケン経理部 永野茂樹

名古屋市にある東山動物園の桜です。毎年、桜に誘われてここを訪れていますが、風で花が揺れたり、日が陰ったりで思うように撮らせて貰えません。桜は遠目に眺めても綺麗ですが、売店横に咲く花にぐっと近づいてみました。